

---

# 東北大学陸上競技部

## OB・OG通信

2017年No. 3 (2017. 7)

---

- ・北海道大学対東北大学定期戦(円山陸上競技場)
    - …男子優勝(通算47勝30敗1分)、女子優勝(通算5勝20敗)
    - 女子400mで佐貫(2)が58” 28の部記録を樹立!
    - 女子800mで上條(2)が2’ 15” 78の部記録を樹立!
    - 女子5000mW(OP)で白井(2)が26’ 57” 34の部記録を樹立!
  - ・北日本インカレ
    - …上條(2)が女子800mで2’ 13” 81の部記録を樹立!
- 

- |                    |          |
|--------------------|----------|
| ・北海道大学対東北大学定期戦     | 2～11ページ  |
| ・2017日本学生陸上競技個人選手権 | 11～12ページ |
| ・第101回日本陸上競技選手権大会  | 12ページ    |
| ・北日本インカレ           | 12～13ページ |
| ・七大戦の展望            | 13～16ページ |
| ・北大戦決勝記録一覧         | 17～19ページ |
| ・今後の予定             | 20ページ    |
| ・自己ベスト更新者          | 20ページ    |
| ・編集後記              | 20ページ    |

初夏の候、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、第78回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦兼第30回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦の結果や、第68回全国七大学陸上競技大会兼第28回全国七大学女子陸上競技大会の展望などをお伝えします。

### ◎北海道大学対東北大学定期戦(6/3)

・・札幌市円山陸上競技場

各選手大いに健闘し、男子、女子ともに優勝することが出来ました。なお、男子 5000m の酒井洋(3)、松浦(2)、男子 5000mW の及川(3)、寺島(1)、女子 400m の佐貫(2)、女子 800m の上條(2)の記録は大会新記録でした。また、女子 800m の上條(2)、オープン種目の女子 5000mW の白井(3)の記録は部記録更新となりました。

### ★北大戦 結果

#### ・男子

	トラック	フィールド	総合
東北大学	62 点	33 点	95 点
北海道大学	47 点	46 点	93 点

#### ・女子

	トラック	フィールド	総合
東北大学	28 点	13 点	41 点
北海道大学	17 点	17 点	34 点

#### ☆トラック

##### 男子 100m

#### 1 位 藤井佳祐(4) 11"05(-0.8)

スタートの反応が悪く東北 IC のような反応ができなかった。そのため初めは周りに置いてかれてしまった。しかし、持ち前の後半の加速で追い上げ 1 着でゴール。しかし、タイムは悪くフォームも乱れていたため反省の多いレースになった。

#### 3 位 平井景梧(2) 11"36(-0.8)

スタートから序盤までは悪くなくついていくことができたが、二次加速で十分に加速できないまま中間疾走に入ってしまう中盤からトップに引き離され 3 着でゴール。

#### 5 位 白鳥海知(3) 11"48(-0.8)

スタートはいい反応を見せた。後半から隣の走者を意識したことによる力みで接地に体重が乗らなくなっており、それが原因による失速が見られた。



▲男子 100m

##### 女子 100m

#### 1 位 佐貫有彩(2) 12"80(-1.3)

スタートがうまく決まり、50m 通過地点でトップに立つ。後半はストライドの大きい走りでのびていきそのまま 1 位でゴール。

#### 2 位 佐々木千肅(3) 13"10(-1.3)

スタートしてから起き上がるのが少し早かったが、加速し周りについていった。後半は伸び切らず、2 着でゴールした。

#### 3 位 吉村梢(4) 13"26(-1.3)

スタートの反応はよくスムーズに走り始

めたが、加速局面での横ぶれが大きかった。50m 付近までは2位3位で競っていたが、後半は上半身が前に倒れてしまい、2位との差が開いた。3着でゴール。

#### **男子 200m**

##### **1位 大衡竜太(4) 22"66(-0.4)**

スタートしてすぐに内側の選手に先行されるがなんとか食らいつく。コーナーを抜けて2着か3着かというところ。そこからピッチを落とさずにもう一段加速し、先頭に出て1着でフィニッシュ。

##### **2位 白鳥海知(3) 22"71(-0.4)**

前半は力みのない大きな走りでもいい位置につけ、直線に入ってから更に加速した。終盤軸がブレておりフィニッシュ直前にもロスが見られ、2着でゴール。

##### **6位 藤井大輝(3) 23"29(-0.4)**

スタートから体が起き上がり後半も体が強張ったような硬い走りになってしまい、6着でゴール。普段の練習でできている部分的にリラックスした走りができず、接地から蹴り出しが良くなかったように見られた。

#### **男子 400m**

##### **1位 川口航汰(3) 50"53**

スタートで失敗し出遅れ、バックストレートはそのままの4番目くらいで通過した。カーブで加速し、ホームストレート手前で先頭に立ち、そのまま1着でゴールした。

##### **3位 岩波発彦(3) 51"52**

前半は大きな走りを心掛けているように見られたが200mまでに内側の選手に先行を許してしまう。コーナーを抜けホームストレートに入るとピッチを上げ、前との差を詰めていく。最後は惜しくも北大の選手をとらえられず、3着でゴール。

##### **6位 山田球児(2) 53"90**

スタートの起き上がりが早く、コーナーを出る頃にはスピードに乗り切れていなかった。そのためか力みが全体的に抜けてお

らず、ラストは上半身が反ったことによる減速が大きかった。結果、徐々に離されて6着でゴールした。

#### **女子 400m**

##### **1位 佐貫有彩(2) 58"22 NGR**

スタートで少し出遅れるが、バックストレートでのびのびと走り前の選手と差を詰めていった。後半の200mもそのまま減速することなく1着でゴール。

##### **2位 上條麻奈(2) 1'01"73**

前半から上手くスピードに乗ることが出来なかった。200m付近で内側の選手に並べられると、付いていくことが出来ず2着でゴールした。

##### **5位 飯田夏生(3) 1'06"22**

スタートで出遅れ、うまくスピードに乗れないまま200mまでに他の選手に大きな後れを取る。後半は大きく腕を振り持ち前の粘りの走りを見せるが、前の選手に追いつくことはできず、5着でゴール。

#### **男子 800m**

##### **1位 川口航汰(3) 1'59"02**

ブレイクでの位置取りは5番手で入り、1周目は63"のローペースで2周目へ。そこからバックストレートで加速し、残り200mで先頭に立ち、更にペースを上げて1着でゴールした。

##### **3位 佐藤宏夢(3) 2'00"82**

かなりのローペースの中、1周目を3番手の63"で通過。残り350mで、北大の選手と激しく接触しながらも一気にペースを上げ先頭に立つ。しかし残り200mからのスパートにつくことができず3番手となり、そのままペースを維持して3着でゴールした。

##### **4位 宇梶和希(2) 2'01"17**

ローペースの中、300m通過付近の位置取りで後方に追いやられ、400mは後方の外側を走っての通過。残り350mで佐藤のスパートについていく形でペースを上げ、

残り 250m 地点で4位となる。最後のコーナーで前に追いつくも直線で徐々に離され、4着でゴールした。

#### **女子 800m**

**1位 上條麻奈(2) 2'15"67 NGR**

1周目は前に行く北大の選手に余裕をもってつき、400mは2番手の67"での通過。2周目に入ってペースを上げると、そのまま徐々に北大の選手を引き離す。最後は独走となり、1着でゴール。部記録を更新する好タイムをマークした。

**4位 加藤ひより(1) 2'25"87**

ブレイクから5番手につけ、3位集団の後方という形になる。400mは69"で通過。2周目、バックストレートで仕掛けた北大の選手に着くことができず、飯田の後ろにつくと、最後のカーブで飯田をかわし、4着でゴールした。

**5位 飯田夏生(3) 2'26"53**

ブレイクから3番手を走り、3位集団を引っ張る格好となる。400mの通過は69"。その後バックストレートでスパートをかけた北大の選手に着いていけず4番手となると、ピッチが落ち苦しい走りとなる。最後は加藤にかわされ、5着でのゴールとなった。



▲先頭を走る上條(2)

#### **男子 1500m**

**1位 荒田啓輔(3) 4'05"29**

スタートから3番手につき、400mを67"で通過し、2番手にポジションをあげる。そのまま800mを2'14"で通過したところ

で前に出ようとするが、同時に前に出た北大の選手についてそのまま2番手で1000mを通過。そこからスパートをかけはじめ、最後の1周は独走態勢を気づいてフィニッシュした。

**2位 酒井啓一郎(4) 4'09"96**

スタートから集団の後方につけて、1000mまではポジションを変えずにレースを進める。残り1周でスパートをかけた松田についていきポジションをあげ、残り300mで松田をかわして2位に立つ。最後の直線では北大の選手に詰められるも、逃げ切り2位でフィニッシュした。

**4位 松田将大(3) 4'11"38**

スタートから1000mまで、4,5番手を走る。残り400mから先頭を追い一時は2位に立つも、残り300mでピッチが落ちやや苦しい走りとなった。ラストの50mで北大の選手にかわされ、4位でのフィニッシュとなった。

#### **女子 3000m**

**2位 須田桜(3) 11'00"46**

**5位 阿部春花(3) 11'50"34**

**6位 星屋美優(3) 12'13"54**

須田、星屋は先頭集団につき、阿部は5m後方離れたところからのスタート。徐々に星屋も先頭集団から離され、須田は先頭と並走する。阿部が星屋を抜いて並走し、3位集団との差をつめる。阿部が前との差をつめ、星屋は離される。2000m通過で須田は先頭から10mほど離される。阿部は1人抜き、3番手と並走。須田は徐々に先頭と離される。阿部は同率3番手につけ、5番手を5mほど離す。星屋は単独6位。須田はそのまま2着でフィニッシュ。阿部はラスト一周で3番手に離され、さらに1人抜かれて5着。星屋もなんとか6着でゴールした。

#### **男子 5000m**

**2位 酒井洋輔(3) 14'51"73 NGR**

**3位 松浦崇之(2) 14'52"63 NGR**

**4位 笠間淳平(3) 14'57"77**

スタート後北大の選手2人が先頭に出し、少し間を開けて松浦、笠間、北大の選手が3位集団を形成。酒井は一人遅れて後方でレースを進める。2000m 過ぎ遅れていた酒井が一気に先頭に飛び出し一人先頭を走る。少し間を開けて松浦、笠間、北大の選手一人で2位集団を形成。4000m 過ぎで松浦、笠間が北大の選手を振り切る。酒井は一人先頭のままラスト1周を迎える。ラスト1周手前で松浦が酒井に追いつき、笠間は単独3位になりそのままレースは終わると思ったが、北大の選手がラストパートで4位から一気に先頭に上がり松浦、酒井、笠間ともにスパートをかけるが追いつけず酒井が2位、松浦が3位、笠間が4位でゴールした。



▲男子 5000m

### **男子 110mH**

**1位 鈴木景(2) 15"88(-1.1)**

スタートはやや出遅れたものの、1~4台目はスムーズに越えた。中盤、やや走りが間延びしたが、ラストは持ち直し2位と僅差でフィニッシュ。

2週間の準備期間で向かい風1.1mの悪条件の中15秒88のタイムを出し、大学初レースは好調なスタートといえる。

**2位 勝井友樹(3) 15"91 (-1.1)**

6台目あたりまではスピードを維持し一位で通過するも、後半3台は抜き足を引っ掛けるなどして減速。後半にかけてインターバルの走りも重い。ラスト1人に抜かれ

二位でフィニッシュ。

**3位 羽根田佑真(2) 16.02(-1.1)**

一台目の入りはトップであったが、クリアランスで状態がぶれてしまい、思ったような走りができていなかったように見えた。それでも徐々に加速していったが、八台目を抜けたあたりで東北大三人が横一線になったため、力んでしまい、九台目、十台目をリード足で倒してしまうという大きなロス。このロスで北大の一人に並ばれるが、ラストなんとか逃げ切り、三位でフィニッシュ。風も考慮すれば、最後のロスがなければPBは確実に出たであろう試合だっただけに、非常に悔しい結果となった。



▲男子 110mH

### **男子 400mH**

**3位 羽根田佑真(2) 56"06**

気温が低く、雨もちらついていたこともあり、前半はあまりスピードにのらないまま五台目まで通過。内側の北大にここで少し詰められてしまったが、五台目過ぎてからはイーブンペースでつかず離れずの展開。八台目跳ぶ時点で選手五人ほぼ横一線となったが、ラストも大きく減速することはなく、二人をラスト二台で突き放して三位フィニッシュ。走りとしては東北インカレの時よりも前半のスピードが足りず、いまいちであったが、記録は今回のほうがよかったことを考えると、さらなる記録更新に期待できる試合となった。

**4位 加地拓弥(1) 56"71**

大きな課題であったスタートから 1 台目を改善したが、その所為で 2 台目で歩数が狂い、重要な加速局面でブレーキ。また、ハードリングの技術不足が目立ち、後半の減速も大きかった。今後改善すべき点を洗い出せたレースであった。

#### 5 位 鈴木景(2) 58'81

初めの 2 台はハードリングもスムーズに越え、前半の 5 台は好調に走っていたが、6 台目で歩数が合わずやや減速。その後、8 台目で歩数が合わず 19 歩となりさらに減速。そのまま他選手に抜かれ 5 位でフィニッシュ。

#### 男子 3000mSC

2 位 立野佑太(2) 9'39'07

4 位 堀拓磨(2) 9'57'40

6 位 田中翔悟(M1) 10'25'29

スタート直後北大の選手が一人飛び出す。東北大の 3 人はそこについていかず 5 人で 2 位集団を形成する。400m 過ぎで先頭を吸収し 6 人の集団となる。1000m 過ぎ立野が先頭に立ち集団を引っ張るがペースがなかなか上がらない。中間あたりで田中、北大の 1 人が遅れ、先頭集団は 4 人となる。4 人の集団でラスト 600m を迎えると北大の選手が一気にペースを上げ、立野、堀はついていこうとするが差は一気に開いてしまった。そのまま先頭に追い付けず立野が 2 位、堀が 4 位、田中が 6 位でゴールした。

#### 男子 5000mW

2 位 及川一真(3) 22'26"63 NGR

3 位 寺島智春(1) 22'28"32 NGR

5 位 森渉(4) 24'18"05

小雨が降ったり止んだり、気温は 13℃ほどで、山から吹いてくる風が肌寒い円山の競技場。男子 5000mW がスタートした。1 周して、2,3 位を及川・寺島が、5 位を森が歩いている。1000m の通過は及川・寺島は 4'19 だった。森は 4'30 と落ち着いた

てレースを進めている印象で、徐々に 4 位との差を縮めている。2000m を通過して、依然として及川・寺島は 2,3 位であり、4 位に 80m ほどの差をつけている。森はその 30m ほど後方におり、2400m ぐらいからペースが落ち始めた。腕は振れているように見えるが、ピッチが上がらない。4200m を通過して、及川・寺島は周回遅れとなってしまった。寺島・及川の順で残り 1 周の鐘が鳴る。ラスト 50m で及川が寺島を抜き 2,3 位でゴールし、ゴール後はしばらく立てないほどのデッドヒートであった。森は苦しい歩きとなったが、なんとか 5 位でゴールした。



▲男子 10000mW 寺島(1)、及川(2)

#### 男子 4×100mR

##### DQ

大衡(4)-白鳥(3)-平井(2)-藤井佳(4)

1 走の大衡、スタートはやや出遅れたかに見えたが後半スピードに乗ると北大との差を大きく詰めた。バトンパスはやや遠く、何とか渡す形となった。2 走は白鳥、大きなストライドで北大と並走を続けるが、後半の伸びでややリードを奪う。バトンパスはかなり遠く、受け取る側が減速しての受け渡しとなった。3 走の平井、バトンパスで遅れをとったが素早いピッチでコーナーをうまく走り北大との差を詰めた。バトンパスはやや詰まり、北大とほぼ同時に第 4 走者へバトンが渡る。4 走は藤井佳、バ

トンを受け取った直後の加速でリードを奪う。中盤からは力みが見られたがリードを保ったまま1着でゴール。しかし、第2、3走者のバトンパスの際にテイクオーバーゾーンを出てバトンを受け渡したため、失格となった。

### **女子 4×100mR**

**1位 49"52 NGR**

**中村(3)-佐貫(2)-吉村(4)-佐々木(3)**

1走は中村、スタートですぐに体が起き上がってしまったが、持ち前の速いピッチで加速し北大に離されることなく走ることができた。その後無難にバトンパス。2走の佐貫、バトンは滞ることなく渡り、どんどん勢いに乗っていった。大きなストライドで北大との差を広げていった。バトンはスピードに乗ったまま、うまく受け渡す。3走は吉村、上手く勢いに乗り、北大との差をさらに広げた。バトンパスは少し遅く、遅めに渡った。4走の佐々木、後傾した走りとなったが、差を縮められることなく、そのまま1位でゴールした。



▲佐貫(2)から吉村(4)へのバトンパス

### **男子 4×400mR**

**2位 3'23"13**

**白鳥(3)-川口(3)-羽根田(2)-岩波(3)**

1走は白鳥、外側の5レーンからスタート。勢いよく飛び出しバックストレートに入ったが、200m手前で内側から北大に並ばれる。その後は並走を続け、ホームストレートに入ったところでスパートをかけ前

に出る。ラストも大きな走りで駆け抜け、ほぼ同じタイミングで第2走者へバトンパス。2走は川口、リラックスして入ったがコーナーを抜ける前あたりから加速し、大きくリードを奪う。後半は少し疲れが見られたが力強い走りでスピードを維持し、10mほどのリードをもってバトンパス。3走は羽根田、大きなストライドの走りでスピードに乗って走っていくが、徐々に北大に差を詰められていく。ホームストレートでも粘りを見せ5mほどのリードを保ったままバトンパス。4走は岩波、前半から攻めの走りをしていったが北大との差を広げることができず、250mあたりから差を縮められはじめ、ホームストレートに入ってラスト勝負となる。残り50mまではリードを奪っていたが残り20mあたりで前に出られ、2着でゴール。

### **☆フィールド**

#### **男子走高跳**

**1位 山下一也(3) 1m95**

直前に行われていた三段跳で練習試技ができなかったため、180cmから試技開始。1回目は助走が合わず失敗したが、2回目に成功。185、190とも一回で成功したが、助走がかなりゆっくりである印象。195は1、2回目ともに助走が整わず、失敗。3回目は前半のリズムや内径での沈み込み、テンポアップなどが上手くいき成功した。198cmは体が思うように動かず、3回とも失敗した。今回は三段跳の後で疲労がたまっている状態で跳んだため、全体としてキレのある動きができていかなかった。

**4位 根谷温(3) 1m70**

全体的に助走が安定せず、全て中途半端な跳躍になってしまった。しかし、踏切は良いときもあり、その時は力を込めることができた。しかし、175に上がると踏切も悪くなってしまった。175の3本目は比較的よく、うまく修正することができたが、普

段通りの体がうまく回らない跳躍となつてしまった。身体がまわらないのが最大の課題だと考える。

#### 5位 渡辺智輝(2) 1m70

165cm からスタート。165cm、170cm とともに 2 回目でクリア。165cm1 回目から175cm2 回目までは、テンポアップを意識しすぎたために曲走で刻んでしまい、動きが小さくなり上手く踏切体勢へ運ぶことができなかつた。175cm3 回目は助走を上手く走れたが、クリアランスで踵を引っかけてしまい、クリアならず。



▲山下(3)の跳躍

#### 女子走高跳

##### 1位 中村真璃子(3) 1m50

145cm からスタートした。145cm は1回でクリア。身体が浮かずバーに触れた。150cm も1回でクリア。こちらはバーには触れずクリアした。155cm は3回とも失敗した。1回目と3回目は身体が回転できず、また助走も安定しなかつた。2回目は助走スピードを制御できず、マットに飛び込む形で失敗した。いい跳躍が全くなく、課題の残る試合となった。

##### 2位 泉屋咲月(1) 1m45

125cm からスタート。135cm まで一回でクリアするが、初めての出場ということもあり体をうまく使えず、助走での内傾と体のそりができていない。徐々に感覚を取り戻し、140cm の2本目では助走と踏切がかみ合い、比較的余裕のある跳躍ができた。145cm では強い踏切を意識するも体

が潰れてしまう。大きくバーが揺れるギリギリの跳躍であった。バーと体との距離感を掴むこと、内傾からの開放を身に付けることが今後の課題である。

##### 5位 渡邊朝美(M1) 1m40

跳躍練習不足で一回ごとに助走が変わってしまった。145の挑戦は何も修正できないまま終わった。試技数差で3-5位の最後になってしまったのは痛い。高跳びを練習する時間ももう少し作りたいところである。

#### 男子棒高跳

##### 3位 赤星栄治(1) 2m60

2m40は1本目足が合わず詰まってしまう上手く浮かなかつた。2本目でクリア。2m50は1本目でクリア。2m60は助走を伸ばして握りを上げ2本目でクリア。2m70は体は超えていたが体が回転しすぎて空中で超えた後に足が当たって落とすものがあった。ターンができないためベリーロールの様な跳び方になっているのとうち太ももに痛みがあったため思い切った動きができなかつたのが原因と思われる。ターンを覚え助走を作るのがこれからの課題である。

##### 5位 鈴木輝彦 2m40

2m40を一回の試技でバーに触れてはいたがクリア。2m50は高さは出ていたがクリアできず。3回目の試技で握りをあげるもクリアならず。ターンができないことが大きな課題であり、助走も伸ばす必要がある。

##### 藤井大輝(3) NM

練習では3mを超えていたものの、本番スタートの2.70では助走が合わず体が上がりきらない跳躍だった。助走の安定が課題であろう。

#### 男子走幅跳

##### 1位 相澤一樹(1) 6m69 (+3.8)

助走は練習通りで距離の調節もうまくい



き、ある程度の安定感があったためファールは二本に抑えられた。ただ気温で身体が動きにくかったのと、単純に思いきれなかったこともあり、特に最初の方の跳躍はスピードに乗れなかった。さらに、助走一歩前の間延びがひどく、踏切がややブレーキになってしまった跳躍もみられた。試技の後半に助走のスピードをあげ修正できたのは良かったが、前に抜けるような跳躍が少なかったのは残念だった。今後の課題は、無理に高さを出さず今より若干スピードを意識した跳躍を安定させること、踏切一歩前の間延びを無くすこと、単純にトップスピードをあげることの三点である。

#### **2位 藤井佳祐(4) 6m61 (+2.1)**

練習跳躍では悪くない助走が出来たが本番では助走が変わってしまい全体的にうまく走ることができていなかった。また、風にも対応出来なかったのが要因の一つと見られる。

#### **3位 大塚祐貴(4) 6m42**

試合の中ではさみ跳びに初めてチャレンジしたが、一度も成功せずに着地まで持っていくことができていなかった。また、今年度の課題である助走が安定せず踏切手前で間延びした跳躍が多く記録が伸びなかった。

#### **女子走幅跳**

##### **1位 吉村梢(4) 5m03(+0.9)**

100m、4×100mR の後に走幅跳びに出場し、結果としては5m03でPBを更新した。

1 本目は助走が合わず、ファールだった。  
2 本目は助走の後半で足を合わせるために動きが小さくなり、踏切では走りの勢いそのまま跳んだため高さがなかった。3本目はファール。4本目は助走距離を伸ばしたため後半も勢いが落ちず、踏切でも6本の中で1番高く上がることができた。これが今回のベスト記録となった。5本目は後半のテンポが上がらずストライドが伸びて

しまいファール。6本目は2本目と同様、高さが無い跳躍だった。

##### **4位 渡邊朝美(M1) 4m80(+0.7)**

試技前半は助走でかたくなってしまいなかなかスピードに乗れなかった。後半に入ると若干の改善が見られ、無難にまとめたという感じである。全助走での練習を引き続き積んでいくことが必要だろう。

##### **6位 門脇郁(2) 4m56 (+1.6)**

1本目 4m22。踏切の正確さを優先させるために中助走からスタートした。以降の跳躍ではスピードの必要性を感じ、全助走で行っている。2本目ファール。1本目よりスピードが上がったことで、踏切姿勢が潰れて、足も流れてしまった。3本目 4m49。助走リズムは悪くないが、ファールを恐れて踏切手前で跳んでしまう。4本目 4m56。3本目より2センチ前からスタートした。加速と踏切がともに崩れることなく跳躍することができた。5、6本目ともに4m50。4本目の跳躍を基準にリズムや踏切を意識したが、さらなる記録の向上につながらなかった。今後の課題として、安定した助走の確保と走力の向上が不可欠である。

#### **男子三段跳**

##### **3位 藤井佳祐(4) 13m00(+1.0)**

2本ファールをしてしまい3本目は記録を残しに行き 12m 中盤であった 4本目に13mを跳ぶことが出来たが 5、6本目もファール全体的にファールが多い試合であった。

##### **4位 山下一也(3) 12m64 (-0.3)**

1本目はステップで潰れてしまいファール。2本目はポップで浮きすぎないように意識し、ステップで潰れることなく記録を残した。3、4本目はステップで潰れてしまいファール。5、6本目は潰れることなく跳躍でき、12m64と12m63という結果だった。対校戦に向けあまり練習ができず、当日の体の動きもあまり良くなかったた

め、記録を伸ばすことができなかつた。より一層の技術面での改善が必要であろう。

#### **6位 松岡恭平(2) 12m26**

決勝に進むために跳んだ 1 本目が記録として残った。2 本目以降いつも通りの助走が出来なかつた。原因としては授業で宮城野での練習に参加できなかったことや評定で全助走が出来なかつたことがある。場所や時間をうまく作って助走練習をして次の試合では良い助走ができるようにしたい。

#### **男子砲丸投**

#### **1位 佐藤雄也(M1) 10m17**

本試合ではリリースポイントの前後位置に重点を置き、試合に臨んだ。1 投目はフォームの形は気にせずグライドの速さも 8 割ほどに抑えて投げていたものの、今季の SB に達する記録を出しており好調に感じられた。2、3 投目ではリリースポイントが左足の横のあたりになるよう身体を前に持ってきて突き出したため、力がより加わり記録を順々に伸ばして一年ぶりに 10m を越える投擲となった。後半の試技ではグライドの速さを最大限に高めて勢いを上げようとしたが、左足に程よく重心を移すことができず、リリースポイントも多少後ろ気味になり記録は伸ばせずに終わった。

#### **3位 今泉裕真(3) 9m38**

試技の前半では、腰の位置が高い状態でステップ投法していたために、突き出しに下半身の力を伝えられない体勢となっており、記録は 9m に届かず 8m88。後半の試技では、砲丸の角度が高くついてしまう時もあったが、ステップで移動する間に上体の向き・高さを保つように修正したことにより記録を伸ばし、9m の壁を越えることができた。跳躍種目がメインの選手であるが、投擲種目にもセンスを大分感じられる試合であった。

#### **女子砲丸投**

#### **4位 渡邊朝美(M1) 9m27**

1 本目こそ無難にまとめたものの、以降の試技は腰が全く乗らず低調に終わった。練習試技での感覚を安定して出せるように、もっと投擲練習の頻度を増やすべきである。北大勢に上位独占されてしまい、残念な結果であった。

#### **5位 佐貫有彩(2) 8m11**

直前の 400m、100m の疲れがあったものの、1 投目で 8m11 をマークした。しかし、その後の投擲では記録が伸びず、結局 1 投目以降は 8m を越える投擲が出来なかつた。全体的に練習不足が感じられる試合であった。

#### **6位 門脇郁(2) 6m37**

1 投目 5m98、2 投目 5m93 と、ともに投げる角度が小さく記録の向上につながらなかつた。3 投目は投げる角度と腰の回転を意識し直して挑み、6m37 をマークした。4 投目 5m69。5 投目 6m32。この 2 本で右腰を出すタイミングを意識したが記録は伸びなかつた。6 投目は砲丸を離すタイミングを遅らせたため左に大きくそれ、ファールとなった。今回の投擲から技術的な未熟さだけでなく筋力不足を痛感した。基礎的な筋力の向上に努めたい。

#### **男子円盤投**

#### **4位 野尻英史(3) 28m04**

1 投目、2 投目は円盤をすくい上げる形となり、24m 程度の記録だった。3 投目は良い軌道を描いたものの、リリース時に円盤に力をうまく込められず飛距離が伸びなかつた。4 投目は腰を落とすようにフォームを修正したところ、ファールになりはしたもののリリースをタイミングを合わせることに成功した。これを生かし 5 投目、6 投目に臨み、6 投目で PB となる 28m04 をマークした。

#### **5位 佐藤雄也(M1) 20m83**

1日に複数種目行う体力がなくなってしまうため、脚の疲労によりターンが全く上手く噛み合わず、記録が低調に終わる。ターンしない方が記録は良かったのではないかと思われる。

### 男子ハンマー投

#### 2位 野尻英史 38m32

1投目は2ターン目の着地がうまくいかず、ファールとなった。2投目は回転数を2ターンに落とし、確実に記録を置いた。3投目以降は、サークルの状態を鑑み1ターン目の速度を落としながら投擲した。結果5投目にターンがうまく決まり、38m32を記録した。

### 男子やり投

#### 2位 新出悠介(2) 47m67

1投目はやりが吹き上がってしまい、45mをわずかに超えた。2投目はやりの投射角を少し抑えすぎたが、47m67とセカンドベストを記録した。3投目は1投目同様やりが吹き上がり、45m30であった。4投目以降は助走スピードを上げてみたが、上

半身と下半身の連動がうまくいかなかず、記録を伸ばせなかった。

#### 4位 宮本貴広(1) 41m03

1投目は助走の速度を落としたものの、これでも助走の勢いが使えておらず、これも腕だけでの投擲になった。2投目以降も修正できず、記録が伸びなかった。下半身からの一連の動きの連動がこれからの課題である。

#### 6位 野尻英史(3) 40m59

1投目はブロック時に上体が若干起き上がっており、十分な溜めを作れなかったが、PBとなる40m59を記録した。またブロック時に左足首をひねった様子だった。2投目は修正し、上体の溜めをうまくやりに伝えることができ、記録を伸ばしたかのように思われたがファールとなった。3投目・4投目は足首の痛みのためにブロックを十分にできず、やりは40mに届かなかった。5頭目以降は足首の状態が悪化したためパスをし、記録は1投目の40m59となった。

## ◎2017 日本学生陸上競技個人選手権(6/9～11)

・神奈川・Shonan BMW スタジアム平塚

参加標準記録を突破した選手が出られるこの大会に宮崎(M1)が出場しました。結果と感想を掲載します。

### 男子 100m

宮崎 幸辰 (M1)	予選	1組 2着	10" 49 (+0.1)
	準決勝	1組 4着	10" 23 (+4.5)

6月10日の日本学生陸上競技個人選手権大会、100mに出場しました。ここ最近の課題であるスタートの感覚を戻すことが今大会の一番の目的で、スタートの練習に重きを置いていました。その成果が出たお陰か、予選から10"4台を出すことができました。6月の初めにこのタイムを出したことは今までになかったもので、力が上がった証拠であると言えます。しかし、スタートから中盤にかけては練習不足が出てしまい、ぎこちないところがあったので日本選手権までに修正したいと思います。0.02差で決勝に行けなかったのは悔しいですが、10"5台とスタートの感覚を取り戻すという中目標までをクリアでき、一足早く10"2台を経験することができ、収穫の多い大会になりました。日本選手権では、中盤に厚みをもたせた走りができるように練習していきたいと思います。

最後に、この戦術的敗北は決して忘れません。

臥薪嘗胆、報仇雪恨、会稽之恥、慮外千万、百折不撓、切齒扼腕、捲土重来、堅忍不拔、焦唇乾舌、愁苦辛勤、悶絕蹙地、幽愁暗恨、銘肌鏤骨

### ◎第 101 回日本陸上競技選手権大会(6/23～25)

…大阪・ヤンマースタジアム長居

日本のトップレベルの選手が集まるこの大会に宮崎(M1)が出場しました。結果と感想を紹介します。

#### 男子 100m

宮崎 幸辰 (M1)	予選	3 組 4 着	10" 43 (+0.4)
	準決勝	2 組 7 着	10" 47 (+0.5)

2 年ぶり 2 度目の出場となった日本選手権でしたが、準決勝敗退という結果に終わりました。一番の敗因は、ハムストリングスの不調によるストライド不足です。学生個人のタイムを受けて、スピード持久や疲労を考えずにスピード練習だけを行ったことが原因であると考えられます。予選の 2 次アップ直後にハムストリングスに張り痛みが生じたのですが、予選、準決ともに棄権を考えるほど調子が悪いものでした。大会中に身体的不調、調整失敗は大不調時を除けば、今回が初めてでした。タイムと順位を気にしすぎて焦って、自滅した結果となって、とてもやりきれません。

逆に今大会での収穫は、スタートのリアクションタイムアップと 10"4 台の安定化です。前者に関しては、スタート方法を従来から変更し、0.02～0.04 秒の向上に成功しました。ただ、慣れていないせいか、予選では 3 歩目で接地のずれが生じて、力を加えるタイミングがほんの一瞬長くなってしまったので、早く慣れるようにします。後者はあれだけ苦勞していた 10"4 台を連発して出せていることから、レベルが上がっている証拠だと考えています。しかし、勝ち切れていません。ここで、決勝進出、優勝数を比較してみると、今年はまだ 1 回しかありません。前半で先行され、後半固くなってスピードが出ないループ、即ち負け癖がついてしまっているのです、これを払拭しないかぎり、自己ベスト更新や勝利することができません。次の 2 戦は岩手でのレースなので、ここで修正したいと思っています。国体の派遣標準は今大会で切ったので、少し肩の力を抜いて走ります。

“最後にゲームを楽しんで感じたの、いつ？” — 『 』空

### ◎第 39 回北日本学生陸上競技対校選手権大会(7/1～3)

…福島・とうほう・みんなのスタジアム

女子 800m で上條(2)が部記録を更新した他、東北大学からは多数の選手が入賞を果たしました。入賞した選手を紹介します。

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子 800m	川口 航汰(3)	3 位	1'59"78
男子 800m	佐藤 宏夢(3)	6 位	2'00"71
女子 800m	上條 麻奈(2)	2 位	2'13"81
女子 5000m	宮間 志帆(M2)	8 位	18'18"40

男子 5000m	高橋 佳希(M2)	4 位	15'08"65
男子 10000m	松浦 崇之(2)	3 位	32'03"13
男子 10000m	酒井 啓一郎(4)	8 位	33'30"97
女子 3000SC	宮間 志帆(M2)	3 位	11'47"52
男子 10000mW	寺島 智春(1)	6 位	46'35"69
女子 10000mW	白井 花(3)	3 位	59'45"42
男子走幅跳	藤井 佳佑(4)	7 位	7m02(+0.0)
女子三段跳	渡邊 朝美(M1)	6 位	10m65(+0.5)
男子走高跳	山下 一也(3)	4 位	2m06
男子棒高跳	高橋 昇之(3)	3 位	4m40
男子 4×400mR	白鳥 海知(3)	8 位	3'17"51
	水戸部 慶彦(4)		
	羽根田 佑真(2)		
	岩波 発彦(3)		

### ◎七大戦の展望 in 2017

7月29、30日に七大戦が開催されます。今年の会場は名古屋で、例年と異なり、一日目と二日目で会場が異なります。一日目が知多運動公園陸上競技場、二日目がパロマ瑞穂スタジアムです。男女共に総合優勝を目指して頑張りますので、是非応援にお越し下さい。

主将、女子主将による OB の皆さんへ向けた意気込みと各パートキャプテンの視点から見た今年の七大戦の展望を掲載致します。(出場選手は変更の可能性があります。)

#### ◆主将の意気込み …藤井佳佑…

主将の藤井です。いよいよ七大戦が迫ってきました。目標は男女優勝です。今シーズン、東北 IC、北大戦では共に目標には届きませんでした。が沢山の選手が PB を出しており、流れが来ています。

七大戦では他大学に比べればエース級の選手は東北大にはいません。七大戦で勝つためにはチーム力で勝つ必要があります。東北 IC、北大戦と対校戦をこなしていき確実にチームとしての力は上がってきています。対抗選手だけでなく OP 種目出場選手含め、全員がベストを尽くす事が出来れば東北大学は優勝できると思います。チーム一丸となって全力で挑みますので、OB・OG の皆様、応援をよろしくお願いします。

#### ◆女子主将の意気込み …吉村梢…

1年間の目標であった七大戦が目前となりました。女子チームは今シーズンに入ってから、400m、800m、走高跳、競歩の四種目で部記録を更新した他、走高跳で日本インカレの出場を決めるなど、よい調子でシーズンを送っております。先日行われた北大戦では、4年ぶりに優勝し、男女共に優勝することができました。内容についても狙った点数の取りこぼしが少なく、取れなかった分も他の種目でフォローすることができ、チームとしての成長を感じる大会となりました。

七大戦はこのメンバーで戦う最後の対校戦となります。去年は 0.5 点差で優勝を逃し、こ

の悔しさをバネに1年間練習を行ってきました。私たちに限らず、他大学も非常に調子が良く、今年も例年以上にレベルの高い戦いが予想されます。そんな中ですが、東北大学も優勝が狙える選手、ここからの成長が期待できる選手もあり、七大戦優勝を目指して戦えるチームであることに間違いはありません。また、七大戦では部記録更新や大会記録も期待できますので、記録にも注目していただきたいです。対抗種目だけでなく、OP種目でもこのチームのもう一つの目標である「全員大学ベスト更新」に向けて頑張ってください。今年も同じ水準が予想される。しかし2番手、3番手の選手も自己ベストをマークすれば、決勝進出の可能性はある。

#### ◆短距離パートの展望

##### ・100m、200m、400m、400mR、1600mR

昨年の上位入賞者のほとんどが4年生ということもあり各大学ともチーム力の低下がみられると思われたが、本格的にシーズンに入り各方面で好記録が出ており今年もレベルの高いレースが期待される。その中でも、男子では今季に入り安定して100mで10秒台を記録している藤井佳(4)、今季短距離全種目でPBを更新し北医体では4冠を達成した水戸部(4)の上位入賞が期待される。女子は昨年の七大戦で短距離種目を制覇した佐貫(2)の活躍が今年も期待される。また、女子400mRでは昨年の大会で記録した部記録に迫る記録を今季もマークしており、2年連続の優勝と1年ぶりの部記録誕生となるか注目である。

短距離パートとしては5、6月の大会で多くの選手が自己記録や大学ベストを更新しており、昨年と比べ2、3番手の記録が良く層の厚さを感じられるようになってきました。七大戦まで残り1ヶ月、一人でも多くの選手が得点に絡めるようパート全体で練習に取り組んでいきます。応援よろしくお願ひします。

#### ◆ハードルパートの展望

##### ・110mH

名大に今季14秒出した選手が2人、阪大京大に15秒0~3が何人か。決勝ラインは15秒2~3か。東北大は部記録保持者の工藤翼が今季まだ調子が戻ってはないが、七

大戦までに14秒は出してくれるだろう。2番手、3番手がベストを出すことは必須。どこまでタイムを伸ばせるかが鍵。決勝に2人出すことが目標。

##### ・400mH

名大の50秒フラットを持つ2人は無視して良いだろう。決勝ラインは54秒~55秒か。名大以外の各大学の54秒55秒のラインにどこまで食い込めるかが鍵。ベスト54秒を持つ鈴木景と加地がどこまで体に戻せるか。今季ベストを出している羽根田にも期待がかかる。

#### ◆中距離パートの展望

##### ・800m

例年よりも予選と決勝の間が長いため、より高いレベルでの記録の争いが予想される。名大、阪大、京大にそれぞれ1'52"台の持ちタイムの選手がおり、川口(3)がその優勝争いに絡むことが期待される。決勝ラインは年々上がっていて昨年は1'54"台であり、今年も同じ水準が予想される。しかし2番手、3番手の選手も自己ベストをマークすれば、決勝進出の可能性はある。

##### ・1500m

得点は3分台の争いとなるため、今シーズン3分台をマークした選手がいない現状では厳しいと言わざるを得ない。しかし800mや5000mを専門とする選手が本番に照準をあわせることで、大幅な自己記録で得点に絡むことを期待したい。

## ◆長距離パートの展望

### ○男子

#### ・5000m、3000mSC

毎年七大戦は非常に暑い中行われるので、今年も長距離種目は過酷なサバイバルレースになることが予想されます。そのため、事前の持ちタイムで2、30秒差があったとしても一切あてになりません。暑い中いかに自分の実力を発揮できるか、どれだけ本番に強いかが、これらが一番順位を左右すると思います。

それでは東北大の選手はどうかというと、東北インカレでは3000mSC、5000mに出場した全選手が自己ベストまたは大学ベストを更新、北大戦では5000mに出場した選手全員が自己ベスト更新と今年は本番にはめっぽう強いことを示す結果を残しています。この本番に実力を発揮できる力と炎天下でも実力を発揮できる力が選手にあるとすれば複数入賞も見えます。

自分は、七大戦は速さではなく強さが求められる大会だと思っています。タイムという面では他校の選手に引けをとっている部分はありますが、強さという面では東北大の選手も十分に各上の選手と渡り合えると今年のレースを見ていて思います。本番はかなり厳しい戦いになることが予想されますが、選手一同全力を尽くすので応援よろしくをお願いします。

### ○女子

#### ・800m

今シーズン好調で、北大戦、北日本インカレで部記録を更新した上條(2)の活躍が期待される。また、2番手争いも激しくなっており、ルーキーの加藤(1)がこのまま記録を伸ばすようなら複数入賞も不可能ではないだろう。

#### ・3000m

七大学全体のレベルは昨年と大きくは変わっていない。優勝は厳しいと予想される

が、集団につくことができれば入賞争いはラストスパートに委ねられると予想されるので、最後まで粘り得点を狙う。

## ◆競歩パートの展望

### ・男子 5000mW

男子5000mWは昨年の2人4点制から2人6点制に移行し、入賞ラインは昨年よりは少し下がると考えられる。京大の山西(4)は今夏の世界陸上男子20kmWに補欠として代表入りするなど、持ちタイム・実績共に突出しており、レースの中心になることは間違いないと思われる。また先日の学生個人選手権に北大の中川(4)、京大の高野(3)が出場しており、この3名は間違いなく上位入賞をすると思われる。しかしながら4~6位争いは熾烈を極めると予想される。現状どの大学にも22分台で歩く選手がいるからだ。東北大学としては、及川(3)、寺島(1)が先日の北大戦で22分半を切る歩きをし、この入賞争いに加わるには十分なタイムを持っている。また、森(4)は春先はチームで1番調子が良く、調子が戻れば正選手として出場し入賞争いに加わるだろう。現状競歩パート男子3名には力の差はあまりなく、練習から七大戦を意識した競い合いができる。残り少ない日数であるが、タイムだけで無く、競り合いで勝てる勝負強さも鍛えて七大戦に臨みたい。

## ◆跳躍パートの展望

今年も七大の跳躍種目のレベルは高水準が予想される。東北大の総合得点の鍵となるのは間違いなくフィールド種目であるため、垂直、水平共に複数入賞は必須だろう。

### ○男子

#### ・走幅跳

今年のエイトラインは7m15前後が予想される。藤井佳(4)と高橋昇(3)が今季7m10台をマークして上り調子のため、さらなる飛躍が期待できる。今泉(3)と相澤(1)も7mを跳ぶ力は十分ある。全員がどこまで記録

を伸ばして複数入賞するかが大きな鍵となるだろう。

#### ・三段跳

今年のエイトラインはほぼ例年通りの14m20辺りが予想される。藤井佳(4)は14m後半は跳ぶ力があるが安定性がやや不安要素。望月(3)と松岡(2)は厳しい戦いになるかもしれないが、仕上がり次第ではラインに食い込んで来る可能性は十分ある。

#### ・走高跳

去年よりは厳しい戦いになることが予想される。他大に2m台跳ぶ新入生が複数入と赤星(1)の成長にも期待である。

### ○女子

#### ・走幅跳

今季、短距離の吉村(4)が5m台を跳び調子がいい。スピードにあった踏切ができればさらに記録は伸びるだろう。門脇(2)はまだ跳び方が安定していないが、試合までどこまで仕上げられるか。

#### ・走高跳

今季1m56の部記録を出した中村真(3)がPB(1m61)を跳ぶまでに仕上げれば、優勝の可能性は高い。また、ハードルの泉谷(1)が北大戦で1m45を跳びセンスをみせた。これら2人の複数入賞に期待である。

### ◆投擲パートの展望

### ○男子

#### ・砲丸投

楠(3)は上位入賞を狙える実力があり、去年、一昨年に引き続き大量得点を獲得して欲しい。得点ラインは10m50程度、表彰台ラインは11m80程度と予想される。

#### ・円盤投

優勝候補筆頭の楠(3)が上位入賞をし、二番手の野尻が得点ラインを越え、複数人入賞を狙いである。楠は故障のため練習不足が懸念されるが、同様の状況の東カレでは十分な結果を残している。野尻(3)も東カレ、北大戦と着実に記録を伸ばしており、期待

部したこともあり確実に得点を取るには2m台が必要となってくるだろう。山下(3)は今季2m03を跳び調子がよく、まだまだ伸びるという感じだ。また、田中祥(4)の怪我からの復帰具合と、渡辺(2)、高橋潤(1)などの1m80台の選手の伸びも重要となってくる。

#### ・棒高跳

今季は高橋昇(3)の調子が今の所芳しくないが、幅での好記録を見ると体自体は仕上がっている。技術面での調節が優勝の鍵となるだろう。最近棒高を始めた藤井大(3)できる。得点ラインは32m程度、表彰台ラインは40m30程度と予想される。

#### ・ハンマー投

出場する野尻(3)は記録が去年の北大戦から更新できておらず、現状では上位入賞が難しい状況である。しかし、練習では安定して、とはいかないが40m級の投擲をしており、調整次第では表彰台も狙えるかもしれない。入賞ラインは39m程度、表彰台ラインは43m80程度と予想される。

#### ・やり投

投擲種目の中ではもっともレベルが高い戦いになるであろう。入賞を狙うためには50m級の投擲が必須であり、上位入賞のためには60m近い記録を出す必要がある。楠(3)は現在フォームの矯正しており下半身が安定すれば60m越えが現実的である。新出(2)、宮本(1)は現在得点に絡むのは難しいが、これからの躍進に期待したい。入賞ラインは51m程度、表彰台ラインは61mと予想される。



北大戦決勝記録一覧

日時：平成 29 年 6 月 3 日（土）（NGR：大会新記録）

会場：札幌市円山陸上競技場

・男子

種目	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位
男子 100m	藤井 佳祐(4) 11.05	堤 亘平(M2) 11.21	平井 景梧(2) 11.36	白石 直之(2) 11.42	白鳥 海知(3) 11.48	渡辺 典仁(4) 11.50
風：-0.8	神奈川・東北大	山口・北海道大	東京・東北大	北海道・北海道大	宮城・東北大	北海道・北海道大
男子 200m	大衡 竜太(4) 22.66	白鳥 海知(3) 22.71	白石 直之(2) 22.82	堤 亘平(M2) 23.04	本村 新(M2) 23.06	藤井 大輝(3) 23.29
風：-0.4	宮城・東北大	宮城・東北大	北海道・北海道大	山口・北海道大	宮崎・北海道大	千葉・東北大
男子 400m	川口 航汰(3) 50.53	本村 新(M2) 51.43	岩波 発彦(3) 51.52	石坂 優人(4) 51.95	山本 誉(2) 52.79	山田 球児(2) 53.90
	千葉・東北大	宮崎・北海道大	茨城・東北大	北海道・北海道大	埼玉・北海道大	青森・東北大
男子 800m	川口 航汰(3) 1:59.02	小畑 皓恭(3) 1:59.90	佐藤 宏夢(3) 2:00.82	宇梶 和希(2) 2:01.17	長谷川 翔(2) 2:04.52	新開 啓(4) 2:07.02
	千葉・東北大	神奈川・北海道大	宮城・東北大	栃木・東北大	千葉・北海道大	広島・北海道大
男子 1500m	荒田 啓輔(3) 4:05.29	酒井 啓一郎(4) 4:09.96	金網 航平(2) 4:10.23	松田 将太(3) 4:11.38	小林 ひかる(4) 4:15.52	小畑 皓恭(3) 4:17.90
	青森・東北大	福島・東北大	北海道・北海道大	宮城・東北大	栃木・北海道大	神奈川・北海道大
男子 5000m	酒井 洋明(2) 14:50.33	酒井 洋輔(3) 14:51.73	松浦 崇之(2) 14:52.63	笠間 淳平(3) 14:57.77	竹原 大貴(3) 15:20.82	土橋 晋也(M2) 15:39.23
	長野・北海道大 NGR	福島・東北大 NGR	宮城・東北大 NGR	福島・東北大	長野・北海道大	北海道・北海道大
男子 110mH	鈴木 景(2) 15.88	勝井 友樹(3) 15.91	羽根田 佑真(2) 16.02	富樫 直斗(2) 16.04	渡井 裕二(4) 16.84	安部 晋吾(4) 17.34
風：-1.1	秋田・東北大	埼玉・東北大	宮城・東北大	北海道・北海道大	北海道・北海道大	鳥取・北海道大
男子 400mH	石坂 優人(4) 55.41	富樫 直斗(2) 55.45	羽根田 佑真(2) 56.06	加地 拓弥(1) 56.71	鈴木 景(2) 58.81	
	北海道・北海道大	北海道・北海道大	宮城・東北大	栃木・北海道大	秋田・東北大	
男子 3000SC	酒井 洋明(2) 9:34.71	立野 佑太(2) 9:39.07	柳原 脩臣(2) 9:48.37	堀 拓磨(2) 9:57.40	島田 潤(4) 10:05.92	田中 翔悟(M1) 10:25.29
	長野・北海道大	静岡・東北大	熊本・北海道大	群馬・東北大	東京・北海道大	兵庫・東北大
男子 5000mW	中川 岳士(4) 20:28.62	及川 一真(3) 22:26.63	寺島 智春(1) 22:28.32	富岡 賢弥(4) 23:55.58	森 渉(4) 24:18.05	
	滋賀・北海道大 NGR	岩手・東北大 NGR	長野・東北大 NGR	秋田・北海道大	宮城・東北大	
男子 4×100mR	北海道大 42.52	東北大 DQ				

	渡辺 典仁 堤 亘平 白石 直之 木村 新	大衡 竜太 白鳥 海知 藤井 大輝 藤井 佳佑					
男子4×400mR	北海道大 3:22.72 木村 新(2) 石坂 優人(4) 安部 晋吾(4) 小畑 皓恭(3)	東北大 3:23.13 白鳥 海知(3) 川口 航汰(3) 羽根田 佑真(2) 岩波 発彦(3)					
男子走高跳	山下 一也(3) 1m95 栃木・東北大	新海 友騎(1) 1m85 大坂・北海道大	安部 晋吾(4) 1m70 鳥取・北海道大	根谷 温(3) 1m70 福井・東北大	渡辺 智輝(2) 1m70 宮城・東北大	齋藤 輝(1) 1m65 北海道・北海道大	
男子棒高跳	杉山 翔馬(4) 3m60 滋賀・北海道大	藤支 良貴(4) 3m50 石川・北海道大	赤星 栄治(1) 2m60 宮城・東北大	山田 泰雅(1) 2m60 北海道・北海道大	鈴木 輝彦(2) 2m40 群馬・東北大	藤井 大輝(3) NM 千葉・東北大	
男子走幅跳	相沢 一樹(1) 6m69 新潟・東北大 (+3.8)	藤井 佳佑(4) 6m61 神奈川・東北大 (+2.1)	大塚 祐貴(4) 6m42 富山・東北大 (+1.3)	堀田 優斗(3) 6m30 北海道・北海道大 (+3.1)	阿部 涼介(2) 6m13 北海道・北海道大 (+0.8)	富樫 直斗(2) 6m04 北海道・北海道大 (+2.7)	
男子三段跳	小堀 裕輝(4) 13m44 愛知・北海道大 (+0.9)	安部 晋吾(4) 13m11 鳥取・北海道大 (+1.5)	藤井 佳佑(4) 13m00 神奈川・東北大 (+1.0)	山下 一也(3) 12m64 栃木・東北大 (-0.3)	鎌田 恭史(4) 12m52 北海道・北海道大 (+1.8)	松岡 恭平(2) 12m26 埼玉・東北大 (+0.5)	
男子砲丸投	佐藤 雄也(M1) 10m17 東京・東北大	赤坂 健太郎(4) 9m77 北海道・北海道大	今泉 裕真(3) 9m38 秋田・東北大	稲村 勇雅(M1) 9m23 北海道・北海道大	渡井 裕二(4) 9m13 北海道・北海道大	宮本 貴広(1) 7m25 茨城・東北大	
男子円盤投	赤坂 健太郎(4) 34m16 北海道・北海道大	横浜 立(3) 30m24 北海道・北海道大	明石 大輝(3) 29m41 富山・北海道大	野尻 英史(3) 28m24 長野・東北大	佐藤 雄也(M1) 20m83 東京・東北大		
男子ハンマー投	稲村 勇雅(M1) 42m12 北海道・北海道大	野尻 英史(3) 38m33 長野・東北大	横浜 立(3) 34m86 北海道・北海道大				
男子やり投	野尻 英史(3) 48m73 長野・東北大	田辺 桐吾(2) 47m67 新潟・北海道大	宮本 貴広(1) 45m31 茨城・東北大	赤坂 健太郎(4) 41m03 北海道・北海道大	新出 悠介(2) 40m68 宮城・東北大	藤支 良貴(4) 40m59 滋賀・北海道大	

・女子

種目	1位	2位	3位	4位	5位	6位
女子 100m 風:-1.3	佐貫 有彩(2) 12.80 秋田・東北大	佐々木 千肅(3) 13.10 神奈川・東北大	吉村 梢(4) 13.26 宮城・東北大	原田 和泉(1) 14.20 京都・北海道大	辰馬 怜子(3) 14.80 神奈川・北海道大	
女子 400m	佐貫 有彩(2) 58.28 秋田・東北大 NGR	上條 麻奈(2) 1:01.73 長野・東北大	上田 江里子(4) 1:03.19 富山・北海道大	原田 和泉(1) 1:06.04 京都・北海道大	飯田 夏生(3) 1:06.22 宮城・東北大	
女子 800m	上條 麻奈(2) 2:15.78 長野・東北大 NGR	上田 江里子(4) 2:22.17 富山・北海道大 NGR	竹平 佳菜子(4) 2:23.59 静岡・北海道大 NGR	加藤 ひより(1) 2:25.87 新潟・東北大	飯田 夏生(3) 2:26.53 宮城・東北大	岸 奈々子(1) 2:41.94 東京・北海道大
女子 3000m	竹平 佳菜子(4) 10:39.96 静岡・北海道大	須田 桜(3) 11:00.46 宮城・東北大	吉住 遥香(4) 11:32.23 北海道・北海道大	大倉 早貴(2) 11:35.33 静岡・北海道大	阿部 春花(3) 11:50.34 宮城・東北大	星屋 美優(3) 12:13.54 大坂・東北大
女子 4×100mR	東北大学 49.52 中村 真璃子(3) NGR 佐貫 有彩(2) 吉村 梢(4) 佐々木 千肅(3)	北海道大学 53.56 塚越 千弘(2) 原田 和泉(1) 辰馬 怜子(3) オチョア・ナカヤ・クラウディア・ノエリア(3)				
女子走高跳	中村 真理子(3) 1m50 新潟・東北大	泉屋 咲月(1) 1m45 宮城・東北大	青木 あかね(M2) 1m40 北海道・北海道大	塚越 千弘(3) 1m40 神奈川・北海道大	渡邊 朝美(M1) 1m40 宮城・東北大	森 歩美(2) NM 富山・北海道大
女子走幅跳	吉村 梢(4) 5m03 宮城・東北大 (+0.9)	原田 和泉(1) 4m97 京都・北海道大 (+1.4)	ナカヤ・クラウディア(3) 4m92 北海道・北海道大 (+1.1)	渡邊 朝美(M1) 4m80 宮城・東北大 (+0.7)	塚越 千弘(3) 4m79 神奈川・北海道大 (+0.2)	門脇 郁(2) 4m56 福井・東北大 (+1.6)
女子砲丸投げ	塚越 千弘(3) 10m61 神奈川・北海道大	線谷 咲良(3) 9m76 北海道・北海道大	千葉 沙也加(1) 9m48 宮城・北海道大	渡邊 朝美(M1) 9m27 宮城・東北大	佐貫 有彩(2) 8m11 秋田・東北大	門脇 郁(2) 6m37 福井・東北大

## ◎今後の予定

- ・7月29～30日 全国七大学対校陸上競技大会…知多運動公園陸上競技場（名古屋）  
パロマ瑞穂スタジアム(名古屋)
- ・9月8～10日 日本学生陸上競技対校選手権大会 …福井運動公園陸上競技場（福井）
- ・9月14日 第49回全日本大学駅伝東北地区選考会  
兼 第35回全女駅伝東北地区選考会 …北上総合運動公園(岩手)
- ・9月15～17日 第32回国公立26大学陸上競技大会  
…敷島公園正田醤油スタジアム群馬(群馬)

## ◎自己ベスト更新者(5/22～7/3)

- ・男子100m  
白鳥海知(3) 11"04(+1.8) (北医体) 若林郁生(2) 17'58"36  
青木献広(4) 11"10(+1.8) (北医体) (長距離・フィールド競技会)
- ・女子100m  
吉村梢(4) 12"68(+0.2) (北日本インカレ) 勝井友樹(3) 15"46(+0.1) (北日本インカレ)
- ・男子200m  
白鳥海知(3) 22"46(-1.5) (北日本インカレ) 羽根田佑真(2) 15"57(+1.8) (北日本インカレ)
- ・男子400mH  
羽根田佑真(2) 56"06 (北大戦)
- ・女子5000mW  
千葉智史(4) 2'04"95 (仙台大競技会) 白井花(3) 25'30"63 (北大戦)
- ・女子800m  
上條麻奈(2) 2'13"81 (北日本インカレ) 寺島智春(1) 46'35"69 (北日本インカレ)
- ・男子10000mW  
阿部春花(3) 11'30"09 (長距離・フィールド競技会) 山下一也(3) 2m06 (北日本インカレ)
- ・男子5000m  
松浦崇之(2) 14'52"63 (北大戦) 今泉裕真(3) 6m90(+0.5) (仙台大競技会)
- ・男子走幅跳  
本田雄生(M1) 15'29"08 (日体大競技会) 吉村梢(4) 5m03(+0.9) (北大戦)
- ・女子走幅跳  
黒須大地(1) 16'11"75 (北大戦)
- 三浦大樹(2) 16'12"46 (北大戦)

## ◎編集後記

6月の北大戦では男子が2連覇、女子が4大会ぶりの優勝を飾ることが出来ました。複数の種目で大会新記録や部記録も樹立され、健闘が見られました。そして、ついに今月末には七大戦が行われます。1年間、各選手この日のために練習してきました。当日は、対校戦に出場する選手だけでなく、OP種目に出場する選手、応援部隊、マネージャーなど、全部員が一丸となって戦ってきます。応援のほどよろしく願いいたします。

文責 阿部春花

東北大学陸上競技部三秀会

〒980-0815 仙台市青葉区花壇2-1

東北大学評定河原グラウンド内

[hukumu\\_tohoku\\_ob2sin@yahoo.co.jp](mailto:hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp)